

The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

藤沢 知里

(日老医誌 2025 ; 62 : 110-111)

このたび IAGG・日本老年医学会の御力添えを賜り、The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加させて頂きました。本会は 2024 年 5 月 22 日～24 日に東京大学にて開催されました。名古屋大学老年内科に限ってみると、これまで、IAGG Master Class は医師 10 年目以下の先生方が比較的参加されている印象でした。当時 4 年目あたりだった私も一つ上の先輩が参加された後、数年先は自分の番かなとほのかな期待はしていましたが、妊娠などのライフイベントにより以来 10 年ほど参加の機会を逃していました。この度、コロナ禍以来久しぶり、しかも日本で開催とのことで梅垣教授からまだ枠があるよとお声がけいただいたときは二つ返事で参加の希望を伝えました。予想通り、実際に会場についてみると、Master Class 受講生に限ると、大学院生の先生やフェローの先生方が多い印象で、PhD を取得した後、教員として参加されている先生は少ない印象でした。老年内科は他大学と仲がとても良いと諸先輩方に聞いてはいましたが、私自身は、他大学や他施設の老年内科の先生方と直接お話しする機会などがあまりなく過ごして参りましたので、1 日目は、まわりに話す人もなく過ごしました。しかし、私と同じような環境で、参加されている先生は他にもいるもので、韓国から来られている同年代で子供も同じ年の女医さんとひよんなことから 1 日目にとっても仲良くなり、私生活の事、老年内科の大学での立ち位置、給与などの待遇面についてなど多くの話題について盛り上がりました。一方、講義の面は、もちろんすべて英語でしたが、フレイル、転倒、サルコペニア、多剤内服、せん妄、認知症と幅広い話題について、アジアの本当のスペシャリストの先生方から講義をうけることができたのがとても勉強になりました。もちろん知っていることもありましたが最新のガイドラインなどを執筆



されている先生の話は、とても新鮮で興味深いものがありました。さらに、講義後は活発な討論・意見交換がされました。それも日本の講義後ではあまりみない光景で

したので印象的でした。症例について話し合うグループワークの時間もとても有意義でした。私たちのグループは、インストラクターの先生が大阪大学の山本教授、台北大学のPeng教授、東京大学の小島先生でした。お三方ともとても気さくな先生で、症例についての誘導も上手く、特に、医療介護の各国の違いについての熱い討論をされたのが印象的でした。少子高齢化が進むアジアでどのような介護が理想的なのかを改めて考えるよい機会となりました。2日目の各グループでの食事の後、インストラクターの先生方が、グループメンバーをカラオケに連れてってくださって、日本、韓国、中国などの様々な歌で盛り上がりました。研究の話題から、日常の些細な事に至るまで様々な話を仲間で共有することができ、国籍は違えど、とても楽しく過ごすことができました。

グループ症例の検討内容を発表する時は、他のグループは英語が公用語であるメンバーを発表者に選ぶ中で、私たちのグループは、日本人の私を発表者に選んでくれました。質疑応答にはあまり自信がない中、グループメンバーは、質疑応答の際、たくさん助けてくれて、最後は、いつかまた会おうとみんなでハグをして別れを惜しみました。老年内科医として、みんな様々な道に進むと思いますが、いつかまたどういう形になるかはわかりませんが、再会できることが今からとても楽しみです。若手のうちに海外の同じ方向を向く仲間達と触れ合える機会はとても貴重で将来のよい仕事に必ず繋がると思いました。若手向けの国際セミナーを企画・実行して頂いたIAGG（国際老年学協会）、日本老年医学会の関係者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。